



令和 6 年度 雲浜小学校

学校評価



児童、教職員、保護者による学校評価アンケートの結果をもとに、「自己評価」、また、家庭地域学校協議会にて「学校関係者評価」を行いました。それらの総合的な学校評価についてご報告いたします。



令和6年度雲浜小学校スクールプラン

児童数：172名
学級数：8（うち特別支援学級数2）
教職員数：15名

- 児童の実態
- 保護者・地域の願い
- 昨年度学校評価で明らかになった課題

学校教育目標 たくましく心豊かな雲浜の子

【めざす子どもの姿】
ねばり強く挑戦・探究する子
協働的に問題解決しようとする子
ふるさとのよさを豊かに表現する子

通って・通わせて・勤めて Well-Beingな学校

【小浜市学校教育方針】

- 郷土を愛し、よりよい小浜と日本の未来を創造しようとする児童生徒の育成をめざす。
- ふるさとを愛し、誇りに思う心を育む
 - よりよい人生を生き、よりよい社会を創っていく資質・能力を育む
 - 健康・安全で誇りある生活習慣を育む
 - 食への理解を深め、健康な食習慣を育む
 - 全ての児童生徒と教職員が、生き生きと学び働くことのできる学校づくりを進める

重点的に

育てたい資質・能力

協働的な課題設定・解決能力

非認知能力
自制・自信・共感

きく力
聞く・聴く・訊く・解釈

自己表現力

最重要課題

重点課題と取組の具体

【豊かな人間性と健やかな体づくり】

- 執行部を中心とした子ども主体の児童会活動の支援
- デジタルシチズンシップ教育
 - ・デジタルコミュニケーションスキル育成、デジタルジレンマ課題を通して
- 道徳教育・人権教育の充実
- いじめ問題、拉致問題を通して
- 主体性伸長を意図した活動充実
 - ・業間活動、遠泳、読書

【確かな学力・学びのベースづくり】

- 雲浜型3S学習の「(仮)学びプラン」
 - （≡子供を主語にした学習計画案）で授業づくり
 - ・授業DXで「協働的な学びの活性化」と「学びの個性化」を図る
- 子ども主体の「(仮)学習プロジェクトチーム」活動の支援
- 児童の他学年授業参観
- チャレンジタイムの有効活用
 - ・デジタルドリル活用充実・タイピングスキルアップ

【信頼される学校づくり】

- 系統的な「ふるさと探究学習」の地域（近隣小・中・高校を含む）交流
- 「チーム学校」体制の充実
 - ・有機的に機能する校内組織
 - ・関係機関との連携
 - ・新規不登校児を生まない支援体制
- 家庭地域学校協議会・PTA・保護者との連携・充実
- 雲浜小サポーターとの連携
 - ・ICT・施設環境整備、図書、校外学習

主体的に問題解決に取り組む子どもの育成 ～クラウドを活用した協働的な学び方・個別最適な学び方の探求～

- ・子どもの学校生活満足度90%【満】
- ・子ども主体となるように支援したと答える教員90%【満】
- ・「情報活用力育成表」中の項目でスキルアップが図れた児童90%【成】
- ・いじめor拉致を扱う道徳の授業各学年3回/年以上【取】
- ・自己の目標達成に取り組んだ児童満足度90%【満】

- ・雲浜型3S学習モデルの構築、学びプランを活用した授業づくりを行った教員90%【満】
- ・授業検討会の開催各教員1人2回以上/年【取】
- ・（児童）ミライシード活用の満足度80%【満】
- ・（教員）チャレンジタイムの有効活用満足度90%【満】

- ・学校が報告連絡相談や情報発信を保護者に適切に行っていると答える保護者90%【満】
- ・異校種間交流ふるさと探究学習発表会の実施【取】
- ・ふるさとCMコンテストへの参加【取】
- ・世代間交流事業の各学年実施1回以上【取】
- ・雲浜小サポーターの人数昨年度比110%【成】

【事務改善2024】～「幸せ」な職場づくり～ 時間外業務月45時間以上勤務者常時0プロジェクト・校務DXの推進・時差出勤の活用・年休の取得推進・日課の見直し・一斉退勤日の完全実施

スクールプラン評価項目

課題	取組の具体	評価指標と目標値	【満足度指標】評価アンケート項目		【取組指標】
			児童	保護者	
A豊かな人間性と健やかな体づくり	★執行部・委員会を中心とした子ども主体の児童会活動の支援 ★デジタルシチズンシップ教育 ・デジタルコミュニケーションスキル育成 ・デジタルジレンマ課題を通して ★道徳教育・人権教育の充実 ・いじめ問題、拉致問題を通して ★主体性伸長を意図した活動充実 ・業間活動、遠泳、読書	[A1] 子どもの学校生活満足度90% [A2] 子ども主体となるように支援したと答える教員90% [A3] 情報活用力育成表中の項目でスキルアップが図れた児童90% [A4] いじめor拉致を扱う道徳の授業各学年3回/年以上 [A5] 自己の目標達成に取り組んだ児童満足度90%	○学校生活は楽しいですか【A1】（県1） ○自分や人を大切にしていますか（県2 8） ○道徳の授業で自分だったらどうするかを考えるようにしていますか（県1 5） ○タブレットを心や体の健康を考えながら使っていると思いますか（県1 9） ○取り組んでいることは失敗したり、いやになったりしてもあきらめずに頑張るようにしていますか【A5】（県2 3）	●わが子は、学校行事や学級の活動に積極的に取り組んでいる ●わが子は、友達・仲間と協力して活動している ●わが子は、家庭や学校で決められているスマホ携帯PCの使い方についての約束を守って使っている ●わが子は、苦手なことにも目標に向かって粘り強く努力している	○いじめ・拉致を扱う道徳授業3回/年以上【A4】 1年... 回 2年... 回 3年... 回 4年... 回 5年... 回 6年... 回 （か・ひ... 回）
			●【情報活用力チェック】 情報モラルに関する項目【A3】	●わが子は、授業内容を理解している ●わが子は、クロムブックを学習に活用できている ●わが子は、ミライシードに意欲的に取り組んでいる	
B確かな学力・学びのベースづくり	★雲浜型3S学習の「学びプラン」で授業づくり ・授業DXで「協働的な学びの活性化」と「学びの個性化」を図る ★子ども主体の「学習プロジェクトチーム」活動の支援 ★児童による他学年授業参観 ★チャレンジタイムの有効活用 ・デジタルドリル活用促進 ・タイピングスキルアップ	[B1] 雲浜型3S学習モデルの構築、学びプランを活用した授業作りを行った教員90% [B2] 授業検討会の開催各教員1人2回/年以上 [B3] （児童）ミライシード活用の満足度80% [B4] （教員）チャレンジタイムの有効活用満足度90%	○授業の学習内容がよく分かりますか 国語、算数、理科、社会、英語（県） ○分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫するようにしている（全） ●授業で先生の話や友達のを参考にして自分の考えを作ったり、さらによい考えを見つけていたりする ●ミライシードを使うことで、自分のペースで理解しながら学習をすすめることができている【B3】	●わが子は、授業内容を理解している ●わが子は、クロムブックを学習に活用できている ●わが子は、ミライシードに意欲的に取り組んでいる	○授業公開・授業研究（授業担当教員）のべ 人/年【B2】 ○他学年授業参観 1年 2年 3年 4年 5年 6年
			●地域に出かけたり、地域の方と学んだりするのは楽しいですか【1・2年】 ○授業や学校行事を通して、住んでいる地域について、もっと知りたいと思うことがある【県16】（3～6年） ●困ったことがあったとき、学校の先生に相談しやすいと感じますか	●わが子は、学校に安心して通っている ●わが子は、ふるさと学習に対して興味・関心をもって取り組んでいる ●わが子に心配や不安なことがあった場合、学校は相談しやすい体制をとっている【C1】	
C信頼される学校づくり	★系統的な「ふるさと探究学習」を地域（近隣小・中・高校を含む）交流で展開 ★「チーム学校」体制の充実 ・有機的に機能する校内組織 ・関係機関との連携 ★家庭地域学校協議会、PTA・保護者との連携・充実 ★雲浜小のサポーターとの連携 ・ICT・施設環境整備、図書室 ・校外学習等	[C1] 学校が報告連絡相談や情報発信を保護者に適切に行っていると答える保護者90% [C2] 異校種間交流ふるさと探究学習発表会の実施 [C3] ふるさとCMコンテストへの参加 [C4] 世代間交流事業の実施各学年1回以上 [C5] 雲浜小のサポーターの人数昨年度比110%	●地域に出かけたり、地域の方と学んだりするのは楽しいですか【1・2年】 ○授業や学校行事を通して、住んでいる地域について、もっと知りたいと思うことがあ	●わが子は、学校に安心して通っている ●わが子は、ふるさと学習に対して興味・関心をもって取り組んでいる ●わが子に心配や不安なことがあった場合、学校は相談しやすい体制をとっている【C1】	○ふるさとCMコンテスト参加【C3】 ○世代間交流事業の実施学年【C4】 1年 2年 3年 4年 5年 6年 ○雲浜小サポーター募集【C5】 サポーター人数のべ 人 前年比 %
			●困ったことがあったとき、学校の先生に相談しやすいと感じますか	●わが子は、学校に安心して通っている ●わが子は、ふるさと学習に対して興味・関心をもって取り組んでいる ●わが子に心配や不安なことがあった場合、学校は相談しやすい体制をとっている【C1】	

評価指標と目標値、実績値、総合評価

A 豊かな人間性と健やかな体づくり			
取組の具体	評価指標	目標値	実績値
●執行部・委員会を中心とした子ども主体の児童会活動の支援 ●主体性伸張を意図した活動充実 ●デジタルシチズンシップ教育 ●道徳教育・人権教育の充実	【A1】子どもの学校生活満足度	90%	90. 5%
	【A2】子ども主体となるように支援したと答える教員	90%	92. 3%
	【A3】情報活用力のスキルアップが図れた子ども（項目⑤～⑧の平均）	90%	88. 9%
	【A4】いじめ・拉致問題を扱う道徳の授業回数	各学年 3回以上	学年平均 2. 6回
	【A5】自己の目標達成に取り組んだ児童の満足度	90%	87. 2%
総合評価	達成率 97. 1%	A	

B 確かな学力・学びのベースづくり			
取組の具体	評価指標	目標値	実績値
●雲浜型3S 学習の「学びプラン」で授業づくり ●子ども主体の「学習プロジェクトチーム」活動の支援 ●児童による他学年授業参観 ●チャレンジタイムの有効活用	【B1】雲浜型3S 学習モデルの構築、学びプランを活用した授業づくりを行った教員	90%	100%
	【B2】授業検討会の開催（目標値以上の教員数の割合）	2回/年以上の 教員 90%	91%
	【B3】(児童) ミライシード活用の満足度	90%	81. 5%
	【B4】(教員) チャレンジタイムの有効活用満足度	90%	84. 6%
総合評価	達成率 96%	A	

C 信頼される学校づくり			
取組の具体	評価指標	目標値	実績値
●系統的な「ふるさと探求的学習」を地域（近隣小中高）交流で展開 ●「チーム学校」体制の充実 ●家庭地域学校協議会、PTA・保護者との連携、充実 ●雲浜小サポーターとの連携	【C1】学校が報告連絡相談や情報発信を保護者に適切に行っている（保⑩／教⑦の割合）	90%	93.8%
	【C2】異校種間交流ふるさと学習発表会の充実（保⑨／教⑧の割合）	90%	85. 1%
	【C3】ふるさと CM コンテスト参加	参加	参加
	【C4】世代間交流事業の実施	各学年 1回以上	実施 50%
	【C5】雲浜小サポーターの数	前年度比 110%	前年度比 121%
総合評価	達成率 91. 8%	B	

【豊かな人間性と健やかな体づくり】

学校教育活動について保護者の皆様のご理解とご協力のもと、子どもたちは、日々の授業に学校行事に、いきいきと取り組んでおり、大変うれしく思っております。今年度は「自分たちの学習活動や日常生活をより良くするための話し合いをもとに、一人一人が意思決定する機会を多く設定し、自らが目標設定とその達成に向けて頑張るための支援」に力を入れてきました。子どもたちは概ね学校生活に満足してくれているようです。しかし、全員の子どもたちではないことから、「誰一人として取り残さない」を実現すべく次年度以降も取組を考えていこうと教職員で話し合っているところです。

また、メディア、インターネット(タブレット端末を含む)の活用について、保護者の方々もご不安に思っておられ、子どもたちも情報を正しく判断することへの不安がまだまだあることもアンケート結果に出ています。教員もモラル向上に向けた指導の必要性和重要性を強く感じており、道徳教育・人権教育の一層の充実と、デジタルシチズンシップ教育推進を図っていくことについて確認しております。

【確かな学力・学びのベースづくり】

子どもたちは、概ね授業の学習内容がわかると答えています。各教科では、単元ごとにどのように学んでいくのかを示す「学びプラン」を教員と子どもたちで共有し、見通しをもって学んでいけるよう工夫をしました。また、「きく」ことを重視して指導を重ね、授業中の友達や先生の話をよく聴き、自分の考えをより深めようとしている姿が見られています。今後も、仲間の思い考えに耳を傾ける(時に文字、文章から読み取る)という意味の「きく」、分からないことなどを尋ねるという「きく」など発達段階に応じた「きく力」を育てて対話的、協働的に学び、さらに深い学びにしていけるようにと教員で話し合っています。

また、ミライシードを活用する学び方に子どもたちは随分と慣れてきたようですが、慣れがマンネリとならないよう、授業とミライシード、授業と家庭学習を関連させる学び方について、さらに指導、支援していく必要を感じております。

次年度も、DX化によりどのような授業を行っているかなど、学校公開日でご参観いただき、ご感想やご意見をお伺いできる機会を設定していきます



【信頼される学校づくり】

未来を担う雲浜の子どもたちは、『ふるさと雲浜・小浜・若狭』に興味・関心をもって様々な学習活動に取り組みました。その成果は、学びの集大成としてのふるさとCM作成に、そしてふるさと学習発表会にとそれぞれの発達段階に応じた表現方法で発信することができました。これらの活動も、子どもたちを支えてくださる多くの方々(地域の関係団体の方、学校ボランティアやゲストティーチャー)のご協力のおかげだと感謝申し上げます。また、中学生や高校生、保育園児などとの交流により子どもたちの学びの深まりが見られることもわかりました。次年度以降も子どもたちの探究的な学びを教員も共に学ぶという姿勢で学習の充実を図っていきたいと思います。

一方、学校生活における困りごとなどについて、教員に相談しにくいという子どもたちの意識の解消にはいたっていないこともわかりました。学校は、スクールカウンセラーを含んで様々な立場の教員がおり、相談する大人を選択できる体制をとれるよう考えてまいります。

(文責:校長 堂前裕美)